



南側より見る



Junko Fukutake Hall

選評

この建築は、岡山大学の医学部がある鹿田キャンパスの一角に建てられている。大学が現在目指している、地域に開かれたグローバルでボーダレスな人材育成を担うという理念に共鳴した福武純子氏が設計者である「SANAA」に依頼し、寄贈した建築である。

岡山大学にこの施設が誕生した契機は、何よりも福武純子氏という個人にある。大学のあるべき役割や使命について、関係者がさまざまな対話・議論の積み重ねを経て共有した上で、地域に、そしてグローバルに開かれた大学として未来を構築するために、何が必要なのかを具体的に実現すべく誕生した。その要請に対し、設計者も見事に応え素晴らしい成果に繋がっている。福武純子氏というひとりの人間の情熱、思いが大学人と共鳴し、その眼力が設計者の力量を正しく見抜くことでこの「Junko Fukutake Hall」が生み出された。この過程を抜きにして、

この建築の評価はできないと思う。この建築はキャンパスの一角、外部入口に隣接した場所に、あたかも大学のキャンパスに設置された、きわめて大きな現代彫刻を思わせるような新鮮さと驚きを持って、訪れる人を迎え入れる佇まいをしている。一見ランダムに設えられた七枚の傾斜屋根が浮遊する様子は、敷地の新たな場所性を喚起させる現代彫刻であると言っても過言ではない。さらにその屋根の下に展開する空間は、屋根を支えるきわめて細い柱を除けば全面ガラスで囲い込まれ、建物内と外が一体となる、言わば建築という概念を超えた世界を生み出している。それぞれに傾く七枚の屋根はただ平板であるように見えるが、わずかな曲面を持たせることで私たちの硬直さを和らげているところも心憎いほどに行き届いた演出である。建築は常に芸術性を併せ持っていると言われるが、まさに芸術が建築空間を生み出すという



全景



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2015年で56回を数えます。

< 2015年 第56回 BCS賞受賞作品 >

あべのハルカス 大阪木材仲買会館 北九州市立戸畑図書館 サイエンスヒルズこまつ JPタワー 静岡市清水文化会館 マリナート 資生堂銀座ビル **Junko Fukutake Hall** 鈴木大拙館 ダイビル本館・中之島 四季の丘 はあと保育園 明治大学創立130周年記念和泉図書館 ROKI Global Innovation Center -ROGIC- [特別賞] 上州富岡駅

建築主

セレンディピティな1つの出会いから誕生した「Junko Fukutake Hall」より

Junko Fukutake Hall (Jホール) には「合理的で寛容でボーダレスな出会いの場」「自由で愉快的なコミュニケーションを誘発する場」「セレンディピティを生み出す場」という言葉が刻まれた銘板が設置されています。私と当時の医学部長との偶然の出会い、そして大学関係者、SANAAや鹿島建設が加わり、立場・年齢に関係なく、自由な議論を重ね、回を

追うごとに参加者が増えていきました。闊達な議論を重ね、互いに学習し合いながら理想の建築を模索し、Jホールは誕生しました。銘板の言葉はJホール誕生の経緯であり、Jホールへの期待です。誕生から2年、多くの方々が素晴らしい使い方をしていますが、ここから新しい奇跡が生まれることを願っています。



福武純子
Junko Fukutake

設計者

より

街に開かれたキャンパス

岡山大学は数年前から、国際的な研究・教育拠点としての美しい学都を目指し、地域に開かれたキャンパス整備計画を進めています。Junko Fukutake Hallは、大学を象徴する建物でありながらも、地域に開かれた場となることが求められました。

さまざまな大きさの屋根が重なって作られたホールは、450人から500人まで

集まる大きなホールになったり、それぞれが独立してゼミや会議などの小さな集まりのための場所にもなったりします。屋根の下には屋外広場を設け、キャンパスを歩く人々もふらっと立ち寄ってホールの様子を伺うことができます。

Junko Fukutake Hallが学内外の交流の場となり、多くの人々に親しみをもちて使われることを期待しています。



SANAA
妹島和世／西沢立衛
Kazuyo Sejima / Ryue Nishizawa

photo Takashi Okamoto

施工者

関係者全員の想いを具現化することへのチャレンジより

Junko Fukutake Hallは岡山大学鹿田キャンパス内に建てられ、建築主から同大学へ寄贈されるものです。建築主・設計・施工の想いに加え、今後運用していく立場である大学関係者の想いも含め、施工する必要があります。建物を構成する素材は至極シンプルです。代表的なものは鋼板の屋根、ガラスの外壁、木仕上の天井、コンクリート素地の床などですが、根幹となる躯体形状が複雑で同じパーツがないため、施工は多くの時間と

労力を費やしました。複雑な形状のメッキ仕様鉄骨、屋根下地コンクリート躯体の曲面構築、狭隘部での最大10mものガラス施工、内部天井は柔らかな曲面を有する木材仕上など、材料選定から施工方法まで、限られた時間の中で幾度となく試験施工を繰り返し、職人さん達の「より良いものをつくる」という意識が高いこともあって、関係者全員の想いを最大級に具現化できたと自負しています。関わったすべての人に感謝いたします。



鹿島建設株式会社
中国支店 建築部
見積グループ長
佐武 護
Mamoru Satake



ホール1よりホール2を見る

逆説的なレトリックを体現しているのがこの建築だと言えよう。ガラスで仕切られた内部空間は、公園のような場所に生み出された、開かれたコミュニケーションのために多目的に使われる場所——小さなカフェと小さなホールだけのさわめてシンプルな構成である。メインの二一〇席の固定椅子のホールとふたつの小空間を一体的に使用すれば、最大四一〇席収容可能なホールとなる。メインホールの客席部分だけはスロープ形式となっているが、その他は舞台面を含めて床面はフラットである。またホールの天井・床面は木材貼りとし、さらに使用用途によっては遮光カーテンが引かれ、音響的にも安定した環境が確保されている。この建築の素晴らしいのは、設計者の力量、出来栄もさることながら、クライアントであるひとり人間の存在、そしてユーザーである大学の姿勢にもある。そのコラボレーションのあり方こそ、BCS賞にふさわしい。

【選考委員】
佐藤 滋・細田雅春・栗山茂樹

左／ホール1 遮蔽時
右／ commonsスペースよりホールを見る（夜景）



計画概要

建築主：福武純子

設計者：(有) SANAA事務所
(株) 佐々木睦朗構造計画研究所
(株) 森村設計

施工者：鹿島建設(株)

所在地：岡山県岡山市北区鹿田町2-5-1
岡山大学鹿田団地内
竣工日：平成25年10月31日

敷地面積：135,327.00㎡
建築面積：1,320.95㎡
延床面積：1,397.31㎡

階数：地下1階 地上1階
構造：鉄骨造 一部鉄筋コンクリート造